

○コーディネーター

ほかにも類似したいろいろなご意見というのがございまして、印旛郡市の11のところでもそういうのを呼びかける、いわゆる県の示す2パターン以外のことは考えられないのかとかいろいろありまして、それ答えてというのものなかなかつらいもので大変なことがあると思いますけれども、そういうものもあると。そういうご意見もあるということをご紹介をさせていただくということ。

あと、相手がノーと言ったらどうなのかという質問が、これがやはり3件ほどございました。これは相手がだめと言ったらだめ、もうこれは簡単な話で、私からお答えした方がいいと思います。

それで、最後に、熊谷さんからちょっとお伺いしたいんですが、最初の話の中に住民の合意が大前提だと、そういうお話を伺ったわけでありまして、実は質問の中にも何名かの方から、じゃあどういふふうに民意を反映するんだと。反映する方法をどういふふうに考えているのかというご質問がございました。事例的には、例えば住民の投票をせんのかとか、また、こういうアンケートをもう一回やるのかとか、いろんなあれがありますけれども、そういう方法としてどんなものをお考えなのか。個人的で結構ですので、ちょっとお話をいただければと思いますけれども。

○熊谷議員

合意が大前提ということなんですけれども、先ほど町長が言われていたアンケートを何回か実施してやりたいと。その都度中身をグレードを上げて、当然これも必要になってくると思います。

もう一つは、今回こういう形は初めてだったんですけども、一応とにかく論議を尽くすということを考えますと、手変え品変えて、いろんなわからないところを一つずつ理解の方向に持っていくと、そういう形に考えれば、こういう形をまた何度かやっていいんじゃないかと。

それから、各それぞれの議員さんなりあるいはそれぞれの自治会さんなり、議員さんなり自治会さんというものを住民の皆さんとの直接のディスカッションというのでも考えられますね。私もそれは進めていきたいなどは思っています。

それから、もう一つは、きょうは県の方が来てくれてまして、私はやっぱり言いたいことがあるんで、国の役人に直接来てもらってもいいなと僕は思っています。ということは、今さっき言った各省庁間の既得権の争いというのはしようがないと思います。これは一言どうしても言いたいと思っています、私は。そういう中で、とにかく論議を尽くすと、そういうことをまず大前提に考えられるアンケートから、また自分からその考え方の発信ですね、そういうところをこれから少しピッチ上げてやっていきたいと思っています。

○コーディネーター

最後に、いろいろご質問をさせていただきましたけれども、それぞれのパネリストの方でまだ言い足りなかったと、もう少し補足したいということもおありかと思っておりますので、今度は少し逆に、野田さんの方からこちらへ少し補足というか、何かつけ足すことがあればお話を2分ぐらいの程度で申し訳ありませんけれども。

○野田議員

確かに住民に対していろいろ情報を出して合意を尽くすというのは大切なんですけども、合意を得るやり方、こういう情報を流すとか何かというのはもう絶対必要なこと。ただ、私は町長にも時々辛口でお願いするんですけども、町長がじゃあこうしようよという大きな自分の意見を先に出していただく。というも住民に議論を巻き起こす一つかもしれない。ですから、町長は栄町の船長としてこのあらしを乗り切って太平洋の向こう側に渡るんだといったときに、確かにこのあらしは一つの乗り越えなくちゃいけないもんですから、ちっちゃい船で行くのか大きい船で行くのか、私はこういうふうにして向こうに渡るんだという、何かの意思表示をすることによってちょっと違うんじゃない、町長、その船は間違っているんじゃない、こっちがいいんじゃないという意見が多分出てくると思うんです。ですから、むしろ、町長は若いんだし、それはもう例えば僕は何度も町長に言っているんですけども、どんどん失敗したっていいじゃないかと。もっとやんなさいよと私は自分の意見を出して行こうよと。町長非常に優しいですからみんなの意見をとにかく集約するというに徹していますけれども、もっと自分の議論を出してやってみたら、ひよっとしたら大きな議論になるかもしれないと私は思っています。

○熊谷議員

補足というほどじゃないんですけども、この合併問題は表で行けば少しバラ色が見えた感じになっていますけれども、先ほど少し辛口で申し上げたんですけども、合併を本当にやるとすれば、お嫁さん、婿さんの話じゃないんですけども、今全体の自治体というか、見た場合には、通勤圏はもうボーダーレスですよ。県を、都を通り過ぎて、乗り越えて複雑に絡んでいますね、そういう実態がありますね。

一方、生活圏はそれぞれの個性を持った形でそれぞれの自治体で生活しているわけです。また、それぞれの自治体の中でそれぞれの議員さんなり行政サイドでのいろいろなそういう今まで培ってきた伝統といいますか、言葉を変えていけば既得権というか、それぞれの思惑があるわけですね、水面下で。結局こういうことの激突というか、調和とかそういうのがスムーズに行かないとなかなか簡単には合併というのはいかないんじゃないだろうかと。それに輪をかけて総合的に見れば国のそういう求心力といいますか、そういうところというのは、残念ながら今のところ寂しい話で現実には。そういう感じでもらえていますが、私とすればまず最初に申し上げた合併ありきじゃなくて、とにかく情勢判断を時間をかけてじっくりと見据えていきたいと。ぎりぎりまで様子を見て、最終的に慌てないで、必要ならば合併する、できるならば自立する。そういうところを時間かけてじっくり見きわめていきたい、これが私の考えです。

それと、もう一つは町長先ほどいいこと言ってくれたんですけど、楽しくなければいけないんだと。そういう中においては、じっくり17年の3月にこだわることなくやっていきたいなと私も思うんですけども、もう一つは実現可能な夢として、栄市を目指そうじゃないかと。そういう夢をぶち上げて私もいいと思うんですね。わずか4,000人集めればいいんですよ。3万人の市になるためには。そういうところで、できないんじゃないかと、できるようにするには何をすべきかということテーマとして論議を重ねるといっても私は必要かなと思っています。